

家族を守る！
とっても楽しい♡
家庭菜園～

国防は家庭から！

もう絶対！始めよう～

自給率アップ！大作戦



天保時代の種がみつかり、土に蒔いたところ芽を出したというニュースがあつて稲がどれほど長命かを立証したというのに、化学肥料を使った米は、今のままです。三年たつたものは、土に埋めても芽を吹かないという。『複合汚染』より 有吉佐和子著書



もみ米さえ！備蓄しておけば、バケツでお米ができる！土に蒔いて陸稲にしてもお米が家庭でも簡単に作ることが出来る！

去年のバケツで収穫した稲

稲米とバケツだけで出来る！稲づくり～陸稲にも挑戦！

5月になったらバケツで稲づくり！

農林水産省の子供向けHPではバケツ稲の方法を詳しく解説しています
<http://www.maff.go.jp/hokuriku/kids/>



さあ種蒔きだヨ

農道

写真：農林水産省のHPより

とびつきりーアイデア発見
左の写真！これはすごいなあ！これならベランダや小スペースを生かして野菜がたくさん作れそうです！ぜひ皆さんも、試してみてください！

固定種はココで買えます！

Googleで検索 検索

<http://kurup.shop-pro.jp/>

おうちで「自給率アップ！」大作戦 17

由と権利を奪うことを容認する制度であり、自由主義とはとりわけその少数派の自由と権利を保障する主張です。つまり多数決で決められる事項と範囲を限りなく「拡大」させる方向が民主主義の勝利であり、その事項と範囲を限りなく「縮小」させる方向が自由主義の勝利なのです。「自由」と「民主」とはそのような関係にあり、その事項と範囲の線引きを誰が決めるのでしょうか。もし「国民主権」を肯定すれば、その主権を実質的には多数派が支配することになるのです。「民主主義」の完全勝利となります。おとなしくしていたらある程度は自由と権利を認めてやるといってお情けにすがって少数派は生き続けなければならなりません。しかし「主権」概念とオサラバすれば、少数派の自由と権利はコモン・ロー（国体）が多数派の横暴から守ってくれます。「悪法もまた法である。」として死ななくて済みます。「悪法は無効なり。」と胸を張ることが出来ます。にもかかわらず「自称人権派」はこの理屈がわかりません。というか、彼らは実質的には「反人権派」だからなのです。そして、このような輩の跋扈を許してしまったのがこの「主権論」であることを肝に銘じなければなりません。

自殺する自由・権利を認める国民主権

附言すると、立憲君主制と民主主義との関係は、国体論と主権論とは全く異なることに注意しなければならず、国体論の下での立憲君主制は、まさに「国王と雖も国体の下にある」ことから、立憲主義が堅持されるのです。そして国体論の下での民主主義は、まさに国体の下にあり、国家の基本秩序や人々の権利と自由を否定するなど国体の内容を形成するものを破壊することはできないのです。その限度で民主主義は制約され、自由主義は守られます。

これに対し、主権論の下での立憲君主制と民主主義の様相は随分異なってきました。そして主権の所在が誰であるかによっても大きく異なります。君主主権（国王主権）であれば、君主（国王）の専横を許すのも立憲主義からは認められ、民主主義を否定し、自由主義を否定することも君主主権では認められることとなります。なお立憲共和政体の大統領制の場合も、大統領に権限を極端に集中させると、それは「大統領主権」となって君主主権と変わりはなくなります。また大統領に限らず、議会に権限があまりにも集中しすぎるとこれも「議会主権」となって同じ弊害が出てくるのです。次に、国民主権の場合はさらに深刻です。立憲君主制は傀儡君主となり、君主を廃止することも立憲主権として認められます。この場合、君主の地位は国民主権の下で認められますから、国民はいつでもその君主を変えることも君主制を廃止して共和制にすることもできるようになります。国民が主人で君主は家来となつていくからです。そして国民主権の下での民主主義は、一切の事項について少数者を多数者の意見に従わせることができ、自由主義を完全に否定することもできます。そして自分（国民多数派）が自分（国民少数派）の首を絞めることも、国民主権は認めるのです。「それは自殺することには等しく、そんなことはおそろくないだろう。」と思うのは、多数派に属していると信じている者の樂觀です。自殺する自由も権利も認められているのが国民主権なのです。このようにして、このインチキ宗教の主権論教団は、英国では通用しなかったがこれが海を渡り世界に害悪をまき散らすことになったのです。

